



南アルプスの主峰北岳（撮影：広瀬和弘）

## 南アルプスユネスコエコパーク（生物圏保存地域）に登録！ 自然と共生する地域の取り組みと今後について

南アルプス市 ユネスコエコパーク推進室

広瀬 和弘

約1年ぶりに開山祭のため、北岳の登山口である広河原に向いた。ここから見上げる北岳の勇姿がとても好きで、登山の際必ず撮り貯めているのだけれど、当日は小雨まじりの肌寒い日でその勇姿を拝むことは叶わなかった。しかしこの日を待ちこがれていた登山者は蔓払いの儀式のあと、ガスに覆われた北岳へと向かっていった。今年も南アルプスの登山シーズンが始まったのである。

（南ア・エコパーク登録に関わられた広瀬氏に登録までの経緯を綴っていただきました。）

# 木の目草の芽

# 木の目草の芽

2014年8月2日  
公益社団法人  
日本山岳会  
自然保護委員会  
TEL:03-3261-4433

年間購読料 1,000 円  
申込：047-463-8721  
syuaki@pony.ocn.ne.jp  
郵便番号00180-4-710688  
加入者名：川口章子

## 第111号

### 〈目次〉

- P.1 南アルプス ユネスコ  
エコパークに登録！  
広瀬 和弘
- P.8 南アルプスを破壊する  
リニア中央新幹線  
佐藤 明穂
- P.16 芦安山岳館企画展  
「南アルプスでまたあした」
- P.17 投稿  
リニア中央新幹線に思う
- P.20 活動記録

### 南アルプスの山々を取り囲む自治体

平成19年2月、南アルプスの山々を取り巻く山梨、長野、静岡県の関係10市町村では、南アルプスを世界自然遺産へ登録するための南アルプス世界自然遺産登録推進協議会を発足した。南アルプス市で開催された設立総会には10市町村長と議長など関係者が揃い、共有の財産である南アルプスの自然環境を保全する取組みが始まったのである。

山梨県では、韮崎市、南アルプス市、北杜市、早川町、長野県では、飯田市、伊那市、富士見町、大鹿村、静岡県では静岡市、川根本町である。いずれも南アルプス国立公園を有する自治体である。

私たちが設立したこの推進協議会では、まずは南アルプスの普遍的な価値を証明

するため、学識経験者からなる総合学術調査委員会を設置して、過去の文献リストや動植物リストを集約し、学術総論を編集するなど、学術的な価値の集積から始まった。

南アルプス国立公園は昭和39年6月1日、全国で23番目の国立公園に指定された。本年は指定50周年を迎える記念すべき年にもあたる。総面積は35752ha、それぞれの面積山梨県側は18286ha、長野県14079ha、静岡県3387haである。公園利用者数は全国の国立公園と比較すれば決して多いとはいえず、それは、登山口までの公共交通機関が発達していないこと、また急峻な山岳環境のため、登山には一定の登山技術や日程が必要であり、容易に誰もが近づける山岳環境ではないことなど「玄人好み」の山として存在しているからである。

こうして私たちは南アルプスを世界自然遺産へ登録するための活動を展開していったのである。

ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）

登録への取り組み

平成20年12月、南アルプス市で開催さ

れた南アルプス学術フォーラム。これまで集積してきた学術知見を一般公開するために3県推進協議会で開催した。基調講演は岩槻邦男東京大学名誉教授である。また2日目には総合学術検討委員会も開催し、この会議のなかで岩槻先生から「南アルプスは生物圏保存地域登録への取り組みも検討してみても」とのご提案を頂いたのである。

当時誰もが聞きなれない「生物圏保存地域」とは一体どんなものか、まず情報を集めることからこの活動が始まったのである。

今でこそ「ユネスコエコパーク（国内呼称）」と呼んでいるが、その当時はまだ「生物圏保存地域」という単語ばかりが目立っていた。ユネスコのこの事業は文部科学省が所管をしており、当時国内の状況や今後の展望について情報をご提供いただいた。またMAB計画委員会の事務局である横浜国立大学の酒井暁子准教授にも数度お会いして情報収集に努めた。手探り状態であったが、関係者からさまざまな情報を頂き、果たして南アルプスはユネスコエコパークとして活動できるのかどうかを検討す

るために調査研究部会を立ち上げることとなったのである。調査研究部会長は南アルプス市長、そして事務局は南アルプス市が担当することになった。

ユネスコエコパークとは

前述したとおりそもそもユネスコエコパークとは何か、から私たちは始まった。世界遺産は知っていたけれど、「エコパークって一体なんなんだ・・・」というのが当時の実感であった。

ユネスコエコパークは、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が1976年に開始したユネスコの「人間と生物圏（Man and the biosphere）計画」である。この計画を具体的に実践するモデル地域がユネスコエコパークとなるわけである、正式には Biosphere Reserves と呼ばれ、日本では通称ユネスコエコパークと呼ばれている。世界自然遺産が顕著な普遍的価値を有する自然地域を保護・保全するのが目的であるのに対し、ユネスコエコパークは生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的としている。つまり言い換えれば「人と自然のいい関係」を持続的な活動で維持

するといふものである。日本ではこれまで1980年(昭和55年)に志賀高原(長野県、群馬県)、白山(石川県、岐阜県、富山県、福井県)、大台ヶ原・大峯山(奈良県、三重県)、屋久島(鹿児島県)が登録されていた。その後2012年(平成24年)、実に32年ぶりに宮崎県の綾地域が登録された。このことから国内のユネスコエコパークの知名度や取組みが低迷していたことが伺える。今回拡張申請が承認された志賀高原でさえ、地元がユネスコエコパークに登録されていたことは知らなかったと関係者から聞いたことがある。

ユネスコエコパークには、3つの機能(保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援)と3つの区域(核心地域、緩衝地域、移行地域)を示す必要がある。特に3つの区域設定はユネスコエコパークの重要な要素である。核心地域は「多くの動植物の生育が可能で、法的にも厳しく保護され、長期的に保全されていること」、また緩衝地域は「核心地域の周囲または隣接する地域で、核心地域を担保する機能を持ち、教育や研修、エコツーリズムなど自然の保全・持続可能な利活用への理解の増進、将

来の担い手の育成等が行われること」、さらに一番外側にあたる移行地域は「人々が居住し生活を営んでおり、自然環境の保全と調和した持続可能な地域社会の発展のためのモデル地域であること」が求められる。また生態系の豊かさが保全されているか、地域主導の活動、持続可能な資源や自然保護と調和の取れた取組みが行われているか、将来の活動の継続を担保する組織体制や計画があるかどうかが問われてくる。申請窓口は文部科学省。そして国内審査は日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会MAB計画分科会によって審査される。審査にあたって、環境省、農林水産省、林野庁等と数度にわたる協議、調整が行われた。当然国内審査に当たっては審査基準が設定されている。現在世界では119カ国631ヶ所が登録されている。日本では今回新規登録された南アルプス、只見も含めて7ヶ所になった。

#### ユネスコエコパーク申請に向けた取組み

南アルプス世界自然遺産登録推進協議会ユネスコエコパーク推進部会は、構成10市町村長からなる部会である。ちなみ

に本推進協議会にはジオパーク推進部会も設置しており、事務局は長野県伊那市がその業務を扱っている。

事務局ではまず調査報告書を推進部会に提出した。南アルプスを取り巻く自然環境と生物圏保存地域についてまとめたものである。その後調査研究部会は全会一致で登録に向けた推進部会になり、いよいよ本格的に登録のための準備が始められたのである。

推進部会では申請のため具体的な協議を図るため、学識経験者からなるユネスコエコパーク登録検討委員会を設置した。委員長は現在MAB計画委員会委員であり、長年南アルプスの植生環境の調査研究に従事されてきた静岡大学の増澤武弘特任教授が承認された。

登録検討委員会では、広大な南アルプスの現状を把握しながら、具体的なゾーニング案を提示し、申請書の準備に入った。南アルプスの場合、総合学術調査検討委員会によって、これまで調査されてきた動植物リストや文献リストが存在していたので、学術的な資料はある程度存在したことが幸いであった。あとは3県異なる土地所有

の実情を鑑みたゾーニングとその調整であった。ゾーニングにあたって南アルプスの特徴的なことは各県ともに土地事情が異なることだ。山梨県は県有地、長野県は国有地、静岡県は社有地と見事に個性が表われた。申請書作成には各県担当者が定期的に集まり、その記述について検討を行った。何から何まで初めての経験でとにかく手探りの状態が続いたのである。また、ユネスコが突然申請書の内容を変更したことによってこれまで準備をしていたものが使えなくなり、提出期日までの時間的余裕もなく作業の膨大さに途方に暮れたという時もあった。

#### ユネスコエコパーク登録！

ユネスコエコパークの場合、世界遺産と違って現地審査はない。したがって申請書の内容が重要である。また、3つの区域を地域でどう設定しているかも重要だ。申請地域では、これらの作業と併せて申請書と文、英文の作成、概要書の作成、関係行政機関とのさまざまな調整作業が行われる。昨年の9月4日に日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会MAB計画分科会が

開催され、南アルプス、只見、志賀(拡張)がそれぞれ審査を受けた。初めての審査。当日は10市町村を代表してのプレゼンテーションは失敗が許されない非常に緊張感漂う長い1日であった。審査の結果は国内推薦決定である。まずはこの朗報を市長に伝えた。大きな仕事をした達成感にあふれた。

そして今年5月。MAB国際諮問委員会での勧告。当初、3月に開かれた諮問委員会の勧告内容は非公開であったが、ユネスコが突然公開に踏み切り関係者はざわついた。幸いにも勧告の内容は特に是正箇所や指摘箇所もなく、「承認」という勧告であった。不足資料の提出や不備があればそこで求められるわけだが、まずは第一ハードルを越えたことになる。そして6月10日からスウェーデンで開催されるMAB計画国際調整理事会での最終審査を待つばかりとなった。

6月10日からスウェーデンで始まったMAB国際調整理事会。本地域からは増澤武弘委員長が同行することになっていた。会議の進行状況などは時折メールで報告を受けていた。現地と日本の時差は約

7時間あることから、11日の午後から始まる新規申請地の審議の結果を南アルプス市役所で市長を中心に待ち続けた。

12日に日付が変わり、報道関係者も大勢集まる市長室では結果を今か今かと待つ焦燥感が漂い始めた。日本以外の国のことでもめて会議が遅れているとの増澤委員長からのメールに一体いつになったら電話があるだろうとやきもきしていた。一部の報道機関の関係者から午前2時から3時頃になるのではという情報も入り、横内公明、荻崎市長や白倉政司北杜市長、辻一幸、早川町長の日程も気になり始めた。9月はその自治体もほぼ議会議中であり、首長たちは議会対応に追われている真つ最中である。これ以上遅れることになれば連絡対応についても調整を図らなければならない状況に陥りつつあった。

午前1時を回ったころ、電話が鳴った。政府(文部科学省)からの連絡である。「登録」という言葉が受話器の向こう側からはつきりと聞き取れた。そのまま市長に電話を回して正式な登録の報告を受けたのである。

## 南アルプスユネスコエコパークの取組み

南アルプスユネスコエコパークは何と言っても広大な面積を保有していることである。しかも山梨、長野、静岡県10市町村が関係しており、山ひとつ隔てると生活や文化、風土がこんなに違うものなのかと思ひ知らされた。

簡単にそれぞれの取組みを紹介すると、まず山梨県側は何と言っても南アルプスの主峰北岳を有していることである。また北杜市では「水」にかかる保全、そして古来より人々の心の拠り所であるさまざまな山岳信仰がきわだつ。早川町では国重要伝統的建造物群に指定されている赤沢宿が現在でも存在していることだ。この宿は日蓮宗の総本山である身延山や七面山信仰者の講中宿として早川町が大切に保存している集落である。軒先には「江戸屋」や「大阪屋」などの講中札が今も連なっている。

一方長野県側には飯田市の遠山郷である。急峻な谷あいに集落が存在している。また国重要文化財に指定されている「霜月祭り」は圧巻である。大鹿村では国選択重要無形文化財大鹿農村歌舞伎がある。村を



遠山郷霜月祭り

あげて保存に向けた取組みによって毎年春と秋に定期的に公演されており、国際公演の実績もある。

またどの地域もエコツーリズムが盛んで、早川町ではヘルシー美里を拠点に早川生態島の専門スタッフによる自然ガイド、川根本町では地域住民らが中心となって取り組むエコツーリズムネットワークによるツーリズム。特に自然環境の案内と長



大鹿村大鹿歌舞伎

島ダムなどを利用したカヌー、カヤック体験が訪問者にとってはおもしろいメニューだ。

自然環境保全も各地域で多彩に行われている。静岡県側の高山植物保護ボランティアネットワークによる高山におけるニホンジカの食害から高山植物を守る取組みや長野県伊那市を中心に食害対策連絡協議会による高山帯における防鹿柵の設

置作業、富士見町ではカマナシアツモリを保全する取組み、葦崎市甘利山ではレンジツジの群落を保全する取組みなどが行われている。今後はこうした民間の取組みをネットワーク化して情報共有や相互互助できるしくみづくりを行っていきたい。

かつてこの地域は山に依存するための生活があった。今では行われなくなつたが各地で盛んに焼畑農業が行われていた。また南アルプスの山々から切り出す木材生産の場でもあった。自然との共生はずで古くから地域の間で行われ、特に静岡市井川地区の保存されている「ヤマメ祭り」は山村集落の資源を枯渇させないため、独自に河川の利用を制限するなど種の保存に努めてきた。

現在、ヤマトイワナの生息地で知られている北岳を源とする野呂川上流域では、固有種であるヤマトイワナを保全するため、南アルプス市と早川町、そして早川漁業協同組合の協働によって、漁業規則を改定しての保全対策が本年から始まっている。また長野県側三峰川においてもヤマトイワナの保全対策が始まろうとしている。



世界の南限に住むライチョウ (撮影: 広瀬和弘)

#### 今後の取組みや課題

ユネスコエコパークは人と自然の共生を地域で具体化することにより、地域の自然資源の保全をどのように永続的に取り組むかが重要であろう。報道ではしばしば観光客が増加し地域の経済が潤うような表現が散見されるが、ユネスコエコパーク

の場合、直ちにそうなるとは思えない、実際に登録後地域にたくさん観光客がやってきたということは今のところ聞かない。むしろ、ユネスコエコパークの理念に沿った地域づくりを実践し、その持続的な取組みが今後評価を受ければ、多くの方が南アルプス地域を訪れることだろう。まずは地域が内外から「信頼される地域」になることである。それにはユネスコエコパークの理念を地域の多くの方々と共有し、自然を保全しながら地域づくりを行うこと、あるいはそうであることに「誇りと自信」を持つことである。

構成10市町村は南アルプスの山々を共有の財産としながらも、この山によってなかなか交流が図ることができなかった。申請においても10市町村の調整を図ることは相当量の作業を強いられた。このため昨年8月に10市町村長にお集まり頂き、基本合意締結式を行った。これは南アルプスの自然環境の保全、地域間交流、永続的なエコパークの運営等ユネスコエコパークの運営に向けて相互に合意することである。10市町村長の日程を調整することは

困難だ。事業にいたっては1年前以上も予定を確保しないと成立しなくなることもある。恐らく今後も市町村間の調整を図る



ことは南アルプスユネスコエコパークと  
って最大の課題であろう。また南アルプス  
を貫通するリニア中央新幹線建設につい  
ても10市町村と事業者が真摯に向き合い、  
将来に向かって南アルプスの自然環境保  
全に取り組む大きな課題である。

南アルプスユネスコエコパークの取組  
みはまさに始まったばかりである。

世界遺産は「覚悟」が必要ならば、ユネ  
スコエコパークは「体力」が必要である。  
ユネスコエコパークは長続きできる活  
動をこの地域で取り組む人々と話しあい  
ながら、汗をかき、地域力を高める大きな  
財産であって欲しい。

最後に、南アルプスユネスコエコパーク  
の申請にあたり、多くの関係者や関係機関  
に多大なご理解とご協力を頂いた。3県全  
く異なる土地事情もあり、調整には相当難  
航したが、それでも静岡、長野の担当者が  
精力的に活動して頂きこの登録を収めた  
のである。また、文部科学省のユネスコ国  
内委員会事務局や環境省、環境省南アルプ  
ス自然保護官事務所、林野庁の担当官には  
懇切丁寧なご指導を頂き、また多大なご支

援も頂き多くの方々に助けられた。その  
方々のご支援があったからこそ、南アルプ  
スがユネスコエコパークに登録されたこ  
とを忘れてはならない。この場をお借りし  
て感謝を申し上げます。



真原の桜並木と甲斐駒ヶ岳 (撮影：広瀬和弘)

〈投稿〉

## 南アルプスを破壊する

### リニア中央新幹線

長野県下伊那郡大鹿村

佐藤 明穂

### はじめに

東海旅客鉄道株式会社（以下、JR東海と略す）は昨年9月、環境影響評価（アセスメント）法に基づく準備書で、東京都（品川）―名古屋市間を最高時速500km超、最短

40分で結ぶリニア中央新幹線のルート（これは約86%がトンネルとされ、この中に南アルプスを貫通する23kmあまりのトンネルも含まれる）を公表した。また、長野県環境影響評価技術委員会（委員長・亀山章 東京農工大学名誉教授）の一連の審議で自然環境に及ぼす深刻な影響が指摘されたにもかかわらず、JR東海は今年1月31日の同会議での席上、環境への配慮は「現行枠内（準備書に盛り込まれた範囲内）」として2027年開業に向けた計画を変更する考えが一切ないことを明確にした。この後、各都県知事から出された「準備書に対する意見」について、4月23日にこれを反映させたとする環境影響評価書を国土交通省に提出した。現在は、

環境大臣および国土交通大臣の意見を踏まえて国土交通省がJR東海に（予定通りであれば）工事の許認可を出す段階（7月22日までに）である。

南アルプスは今年6月、国立公園の指定から50年を迎えた。また、国連教育科学文化機関（ユネスコ）は申請に基づき、6月にエコパークの認定をした。今後、リニア新幹線計画を進めた場合に南アルプスがどのようになるのかを考えた。

### 1. エコパークの認定

◇ エコパークとは

国連教育科学文化機関（ユネスコ）は6月、人間と生物圏（MAB）計画国際調整理事会でエコパーク（生存圏保存地域）について審議、日本から昨年9月申請のあった「南アルプス」などの新規登録や地域拡大を決めた。エコパークとは日本における呼称で、生態系の保全と自然の持続可能な利用・活用が目的である。登録によって国際的な知名度・イメージの向上につながると考えられる。大きく3つの地域、すなわち核心地域（自然環境を厳格に保護）、緩衝地域（環境教育や観光などに利用）、移行地域（人が住み、自

然との調和を図る）からなっている。

◇ 核心地域での保護

自然環境の厳格な保護の求められる核心地域で、とくに課題となっているのがニホンジカによる高山植物などの深刻な食害である。南アルプス国立公園の北部、仙丈ヶ岳の周辺では周辺地域の自治体や長野県、信州大学などで作る協議会が防鹿柵を設置して植生の保護と再生を図っているが、かつての多様な植生へ戻るにはどれくらいかかるかわからない。今年度はニホンジカが嫌う忌避剤を初めて試用することになっている。

◇ 申請内容

ユネスコに認定されたエコパークの申請内容（全文）を紹介する。ただし、ここでは文部科学省のものを引用することとし、内容としてほぼ同様の長野庁のものは省略する。

○文部科学省（日本ユネスコ国内委員会、2013年9月4日）

○推薦名称「南アルプス生存圏保存地域（南アルプスユネスコエコパーク）」

○申請団体（山梨県韮崎市、南アルプス市、北杜市、南巨摩郡早川町、長野県飯田市、伊那市、諏訪郡富士見町、下伊那郡大鹿村、静岡県静岡市、榛原郡川根

本町)

○特徴等

① 特徴

a. 3000m峰が連なる急峻な山岳環境の中、固有種が多く生息・生育する我が国を代表する自然環境を有する。富士川水系、大井川水系及び天竜川水系の流域ごとに古来より固有の文化圏が形成され、伝統的な習慣、食文化、民族芸能等を現代に継承している。

b. 従来、南アルプスの山々によって交流が阻まれてきた3県10市町村にわたる地域が、「高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性」という理念の下、南アルプスユネスコエコパークとして結束。南アルプスの自然環境と文化を共有の財産と位置付けるとともに、優れた自然環境の永続的な保全と持続可能な利活用に共同で取り組むことを通じて、地域間交流を拡大し、自然の恩恵を生かした魅力ある地域づくりを図る。

c. 移行地域では、経済と社会の発展を目指す取り組みとして、自然体験フィールドの提供や、南アルプス・井川エコツーリズム推進協議会などによるエ

コツーリズムの推進、地域の農林水産物のブランド化(米・モモ・ブドウ・茶・ジビエなど)に取り組んでいる。今後、これらの取り組みを南アルプスユネスコエコパークとして地域共同の取り組みに発展させていく。

② 面積

総面積 302,474ha

a. 核心地域 24,970ha

b. 緩衝地域 72,389ha

c. 移行地域 205,115ha

※ 核心地域や緩衝地域は、南アルプス国立公園、南アルプス南部光岳森林生態系保護地域や、山梨県立自然公園等に設定されており、適切に保護・保全されている。

※ 移行地域は、山地斜面に広がる集落景観が特徴的。また、風土を生かした茶の栽培や、扇状地や河岸段丘上での果樹栽培が盛んで、ブランド化が図られている。また、自然体験施設が整備され、自然環境や地域の歴史・文化を生かした環境教育・エコツーリズムが盛ん。

(以上、引用)

エコパーク申請とその結果の認定は、南アルプスおよび周辺地域の生態系をはじめとする多様性が評価されたものと考えられる。これら申請団体のうち、今回のリニア中央新幹線のルートに当たるのは山梨県早川町と静岡県静岡市、長野県大鹿村である。

## 2. 国立公園指定区域の拡大

◇ 世界自然遺産・エコパークの審査

わが国でも、すでに屋久島や知床、白神山などが世界自然遺産に登録されている。これらの地域では登録までの準備もさることながら、登録後のメンテナンスが充分でなければ登録の更新ができない。それゆえにしっかりと自然保護計画などが求められている。この点ではエコパークも同様で、登録後10年ごとの再審査が課されている。

◇ 現状の問題点

南アルプスは今年の6月、国立公園の指定から50年を迎えた。とはいっても、日本を代表する山岳地域でありながら、標高2500m以上のうち何ら保全対象となっていないところもある。蝙蝠岳や徳右衛門岳、策ヶ岳などおもに静岡県の白峰南嶺周辺の山々である。これは国立公園を制定した際、

大井川上流域が林業の対象(当時の(株)東海パ  
ルプや林野庁)となっていたため、この結  
果として保護区域の極めて狭い「いびつな」  
指定地域になった経緯がある。これを補完す  
るものとして現在、自然環境保全法に基づく  
「大井川源流原生自然環境保全地域」や山梨  
県・静岡県の条例による県立自然公園が設け  
られている。ただ、これらを併せても広範囲  
の環境保全が保障されるものではない。した  
がって、この地域全体で環境保全を満たして  
いるところは少なく、長期的な保全にもおの  
ずと限界がある。

#### ◇ 提言と結論

このことを担保するには現在の国立公園  
の指定区域を拡大し、自然保護法の適用範囲  
を広げることが最も効果的である。特別地域  
に指定されると開発には規制がかかるが、こ  
れはおもに自然破壊をとまなう乱開発など  
が対象である。この場合、それぞれに対して  
自然公園法に基づく審査が必要となり、基準  
を満たさないものは認められない。結果とし  
て、エコパーク登録・認定の際に必要とされ  
る長期的な自然保護制度が確保されること  
につながる。現に、環境省が諮問した専門家  
による審議会が3年に渡って審議を続け、

「南アルプス一帯はわが国において突出し  
た景観、生態系を有するため、その国立公園  
指定区域を拡張すべきである」(2010年  
10月)と結論づけている。エコパーク認定  
を踏まえた世界自然遺産の登録を確実にす  
るためにも、早急に国立公園の指定区域を拡  
大することが不可欠であろう。

### 3. エコパークとリニアのトンネルは両立す るか

#### ◇ 問題点1―先行事業

JR東海の説明資料によれば、南アルプス  
を貫通させるトンネル掘削のために大鹿村  
の4本の坑口をはじめとして、静岡県の大井  
川上流域(二軒小屋周辺)や山梨県早川町新  
倉にそれぞれ複数本の坑口を設けることに  
している。静岡県側では土捨て場も含めた計  
画が明らかにされていることもあり、すでに  
工事用の取付け道路の建設や伐採なども進  
められている(後述)(注1)。

#### ◇ 問題点2―工事地域の「プラント」化

同社は「南アルプスを貫くトンネル工事は  
難工事が予想されるので、早期に着工したい」  
と述べており、自然環境に多くの負荷を与え  
ることを事実上認めている。このトンネル工

事は10年以上に渡って行われるが、これは  
大量の土砂を掘り出して運搬、もしくは埋め  
立てがこの期間続くことを意味する。この間、  
大鹿村などは「工場のプラント」と化して、  
自然環境のみならず住民の生活環境にも多  
大な影響を受ける。このことが果たして「持  
続可能な自然の利用」なのか疑問である。す  
なわち環境教育やエコツーリズム、自然環境  
との調和といったものとは相反する。この点  
だけからも、エコパークとリニアの計画とは  
相容れない。実際に地質や地下水の問題、生  
態系などへの大きな影響が考えられるが、こ  
れらについては項を改めて述べる。

#### ◇ 結論

今までのことについて、JR東海は「工事  
は移行地域で行われるので問題はない」と重  
ねて主張している。しかし、その根拠は全く  
明らかにしていない。一方、「核心エリアを  
外れば(リニアに関わるトンネル工事など  
の)問題はないのではないか」(長野県伊那  
市長)といった発言は、登録基準や海外の事  
例を知らない、責任や根拠の全くない言葉で  
ある。

### 4. 自然環境への深刻な影響

トンネルの掘削によって生じるさまざまな影響について考える。

◇ 希少種

南アルプスでは、絶滅危惧種であるイヌワシやクマタカなどの稀少な猛禽類の繁殖が確認されている。同様に、大鹿村の工事予定区域やその近隣でもオオタカやクマタカ、またブッポウソウやミゾゴイなどの生息地がある。ところで、ミゾゴイ (*Gorsakius gorsagi*・サギ科 体長約50cm) という野鳥をご存じだろうか。世界での生息数が1000羽前後しかおらず、環境省のレッドリストで絶滅危惧種Ⅱ類(国内で絶滅の危険が増大している種)に指定されている。わが国には4~9月に飛来(確認されているところでは、繁殖は日本でのみ)し、中国南部やフィリピンで越冬する。人里に近い溪流や広葉樹の林などを好み、サワガニやミミズなどを食べる。意外にも都市部の公園周辺などでも見ることができ、「ポオーポオー」と低い声で鳴くのが特徴だが、その生態にはまだ不明な点も多い。このミゾゴイの営巣地に当たる場所に、JR東海は工事前の取付け道路を計画している。

◇ JRの回答への疑問

このミゾゴイについて、JR東海側は準備書の中で「たまたま飛来していた1羽」としているが、その根拠は何ひとつ明らかにしていない。たまたまか？そうでないことは事実が示している。少なくとも2006年以降、実際に間近で見ている住民が複数いるにもかかわらず、この件について詳細な生息の検証もしていない。また、工事による道路の幅が計画される場所ではトキワトラノオなど希少なシダの報告もある。いずれも希少種に指定されるもので、JR東海の準備書では詳細な報告のなかったものばかりである。あまりにも拙速な調査では大事な調査対象も漏れてしまう。最初から期限の切られた、結果ありきの調査をするのではなく、地域の専門家などと綿密な調査をするべきである。逆にいえば客観性の乏しい調査だった。

◇ 地質の問題

南アルプスは全体に無数の断層が入り、脆弱な地質帯である。南アルプスの主稜線では三伏峠(百間ナギ)から小河内岳にかけてと大日影岳から荒川岳(前岳)にかけて、西面(長野県側)の崩壊が顕著である。この地域では毎年崩落部分が拡大しており、この辺り全体が深層崩壊の可能性があると考えられ

ている。また静岡県側の悪沢岳(荒川東岳)から大井川西俣周辺域にかけても脆い地質である。

◇ 水の問題

トンネル工事は一般的にまず水抜き抗を開ける。昔から「山は水がめ」ともいわれるが、これは山に膨大な量の地下水が貯留されていることに由来する。それ故に、トンネル掘削における最大の困難点は地下水をどうするかである。破碎帯などは脆いだけでなく、水そのものがトンネルを掘ることですぐに「抜け落ちて」しまう。現案では住民が利用している小河内沢や青木川のトンネル深度(土被り)が少なく、河川の水量減少や枯渇の可能性もしくは危険性が高い。公表された予測値でも、とくに小河内沢の工事前後の水量減少は異常である。これはこの地で生活する人たちにとって重大な問題である。JR東海はこのことをまったく考慮していないと思えない。

◇ 土砂の問題

同様にトンネルを掘削すれば必ず土砂が発生する。大鹿村内での仮置き場や運搬ルートは明らかにされていないが、問題になる点として土砂に自然由来の重金属が含まれて

いる場合がある。岐阜県土岐市付近のウラン鉱脈はよく知られているが、ここ大鹿村でも土砂からヒ素の発生が心配されている。また釜沢地区の小日影銅山（廃坑）、青木地区の蛇紋岩帯には銅や鉄、クロムなどが含まれており、トンネル掘削によりこれらと水・酸素が化学反応を起こして水や土壌を汚染する恐れがある。遮水工法などで適切に責任ある処置をしない限り、住民生活に関わる「水」にきわめて長期に渡って重大な影響を及ぼす。

#### ◇ 土捨て場の問題

現段階で、大鹿村をはじめとする長野県側の残土の処理方法は明らかにされていない。一方、静岡県側の計画は明らかにされている。ここでは斜坑から掘り出された土砂が二軒小屋を経て、一部は畑薙ダムまでの大井川流域の河川敷（計画では6カ所、場所は氾濫原が主体、このうち最大なのが上千枚沢扇状地・ツバクロ平坦地）へ置く計画だ。これ以外は奈良田越南側付近の白峰南嶺（標高2050m付近）の南西斜面を「堰き止めて埋め立てる」形で計画されており、そのための取付け道路も転付峠方向から建設・整備されている。しかし付近の地盤は軟弱（井川一大

唐松山断層」が通っている）で、積み上げられた土砂が崩壊を誘発して深層崩壊を引き起こす可能性も指摘（大鹿村中央構造線博物館 学芸員・河本氏）されている。この結果、土石流が発生して流域に大きな災害を引き起こす。平時でも駿河湾に濁水をもたらし、水産などへの影響が懸念される。人目や人家さえなければ、このような危険性の高い方法で発生土砂の処理を行ってもよいのだろうか。



上：整備された林道（中央に許可証の看板）右下：新たな林道整備のための許可証（山梨県側）左下：白峰南嶺2050m付近（土捨て場予定地と考えられる）



保安林の土地の形質の変更行為の許可証	
許可者	山梨県知事 権内正明
申請者	静岡県島田市向高町4379番地 特南東海製紙株式会社 在任取締役社長 三浦哲郎
許可年月日 及び許可番号	平成22年9月27日 山梨県指合概南林風第2501号
許可の期間	自 平成22年9月28日 至 平成23年3月31日
所在場所	山梨県南巨摩郡早川町新倉字別当代2018番 有林付2018番 第38林班1の小班 第37林班13の小班
行為の内訳	種目：土地の形質の変更（道林作業路の取除） 面積：0.9291ha

## ◇ 結論

大鹿村や住民の要望のひとつに「リニアの小渋川通過は地上ではなく地下にしてほしい」ことがある。これに対して、JR東海は「(土庄の問題も含め)今まで工事としての実績がないのでできない。現行案がベストだ」との主張を変えない。だが、日進月歩の土木技術を含む技術革新は一体何のためにあるのか。そこに見えるのは単にJR東海の経済性一辺倒の論理と都合だけであって、住民らが求めているものでは何ひとつない。また、遠くない将来に南海トラフ地震の発生が予測される中で、このような脆い地質の南アルプスにトンネルを開けることはさまざまな意味でリスクが高い。少なくとも、JR東海はこれらに対する説明責任を果たす必要がある。そもそもアセスメントが動植物に対しては行われ、地域住民の社会生活には何らなされていないということ自体、周辺住民の存在は動植物以下の扱いに等しい。

## 5. リニア中央新幹線は本当に必要か

### ◇ リニアへの疑問1

「本当にこのリニア中央新幹線は必要なのか？」

このことが私の頭から絶えず離れない。今後日本の人口はさらに減るというのに、開業時にどれだけの人が利用するのか。利用者が納得して支払える運賃設定なのか(現段階で公表されている料金は、東京・名古屋間で在来新幹線の+700円、同・大阪間で+1000円)〔注〕。翻って、JR東海の企業規模を大きく逸脱した事業ではないのか。何が起ころう。最後は鉄道事業法で救済されるからよいか。そんな単純な問題ではないだろう。

### ◇ リニアへの疑問2

リニア中央新幹線が必要との論拠に「現有の東海道新幹線では輸送容量が限界」、「近い将来に起こるだろう大地震などの自然災害から大都市間の交通を確保」といった「建前論」がある。だが、つぶさに見ていくとその論理には無理が多過ぎる。整合性に欠けるのだ。たとえば、実際の座席の占有率は平均で5〜6割程度であり、飽和状態というには程遠いのが実情だ。省エネルギーが叫ばれて久しいのに、なぜ新幹線の数倍という前時代的な「エネルギー過消費型」の乗り物が今必要なのだろうか。

### ◇ リニアへの疑問3

ここでの最大の問題、電力の供給源はどこからなのか。長野県東部などの山なみに立つとよく分かるが、北から南にかけての延々とした高圧鉄塔の並びが目に残る。これは新潟県の柏崎から山梨県の大月市笹子へと至るもので、リニア中央新幹線の電力が「どこから来るのか」を明らかにしている。同様に富士川沿いにも静岡県の御前崎からの高圧鉄塔が並んでいる。このリニアモーターカーの消費電力は原子力発電3〜5基分ともいわれているが、超電導を支えるための液体ヘリウム(車輛に搭載)冷却のために膨大な電力を必要とするなど、これだけで充分なのかどうかはわからない。もし消費電力が明らかならずしてJR東海が公表しているはずで、国(国土交通省)もこの点には何ら触れずに許可を出している。これだけの電力が必要だと、昨今流行りの自然再生型エネルギーでは安定した電力源とはなり得ない。

### ◇ 提言と結論

今の時代に照らし合わせた時に、人類はあらゆる意味で自然環境への負荷を減らして共生していくことが必要であり、喫緊の課題でもある。単なる輸送手段の多様化ならば、選択肢は他にいくらかもあるはずだ。リニア

が予定している電力供給源（原発）は廃棄物の問題のみならず、先の大震災による後始末すら満足に行われていないのは周知の事実だ。私には家族があり、子供たちもこの自然環境のなかで暮らしている。この自然は一度失えば二度と戻らない。私が子供たちに将来残したいものは、雄大な南アルプスの山々と麓に広がる大自然、その中で営まれてきた暮らしを受け継いでいくことであり、大規模な自然破壊をとまなうリニア中央新幹線は招かざる客である。リニア中央新幹線の問題では各地の事情もあり、建設には賛否両論がある。経済的な波及効果や「東京と名古屋・大阪間が近くなる」という論調で歓迎する向きも多い。ただこれらの議論の中では、今述べた「リニアの動力源＝電力がどこから来るのか」という問題をはじめ、多くの重要な議論がまったくとってよいほどなされていらない。リニア中央新幹線そのものの提案は今から40年ほど前、わが国の高度経済成長期に計画されたものである。当時と今では日本の社会構造もエネルギー情勢も大きく変わっている。そのときに夢の乗り物とまでいわれたリニアモーターカーだが、災害列島といわれる日本にとって本当にふさわしい乗り物

か、今一度綿密な調査と検証が必要ではないだろうか。「真ノ文明ハ山ヲ荒サズ川ヲ荒サズ村ヲ破ラズ人ヲ殺サザルベシ」と田中正造が述べているように、21世紀は今まで以上に自然環境や生活環境に配慮していくことが求められる。いかに環境に対する負荷を減らし、人間や動植物が共生していくかが緊急の課題である。今ではなくこれから将来に向けて何が必要なのか、このことを突き詰めて考えるならば、結果はおのずと明らかであろう。

### おわりに

最後に、疑問のひとつとして指摘しておきたいことがある。それは山岳関係者からこの大きな問題に対してほとんど問題提起がなされていない点である。私たちの愛する山々が、リニア中央新幹線のような巨大プロジェクトで破壊される可能性があるのに、議論もされないのは不思議である。昔を知る方にとっては、今でも人の手が広範囲に入って見る影もないと思われるだろうが、今回はそれらと比較にならない。乱開発の規模が違うのだ。私たちは、永遠にあの南アルプスが失われることをみすみす許してしまってもよいのだ

ろうか。これでは山に関係する者として、責任放棄の誹りを免れないだろう。

今回の問題が、日本の山岳に関わるすべての人たちの共通した問題意識になることを祈る。また同時に、このような大規模な開発＝自然破壊が将来に何を残すかを考え、このことの是非を問いたい。

### 【注記】

〔注1〕環境省によれば、JR東海が環境影響評価法に基づいて国から許認可を得る前にこのようなことを行えば明らかな「違法行為」だが、ここを所有する特種東海製紙株式会社があくまでも「社内の整備事業」であれば問題にはならないとのことである。

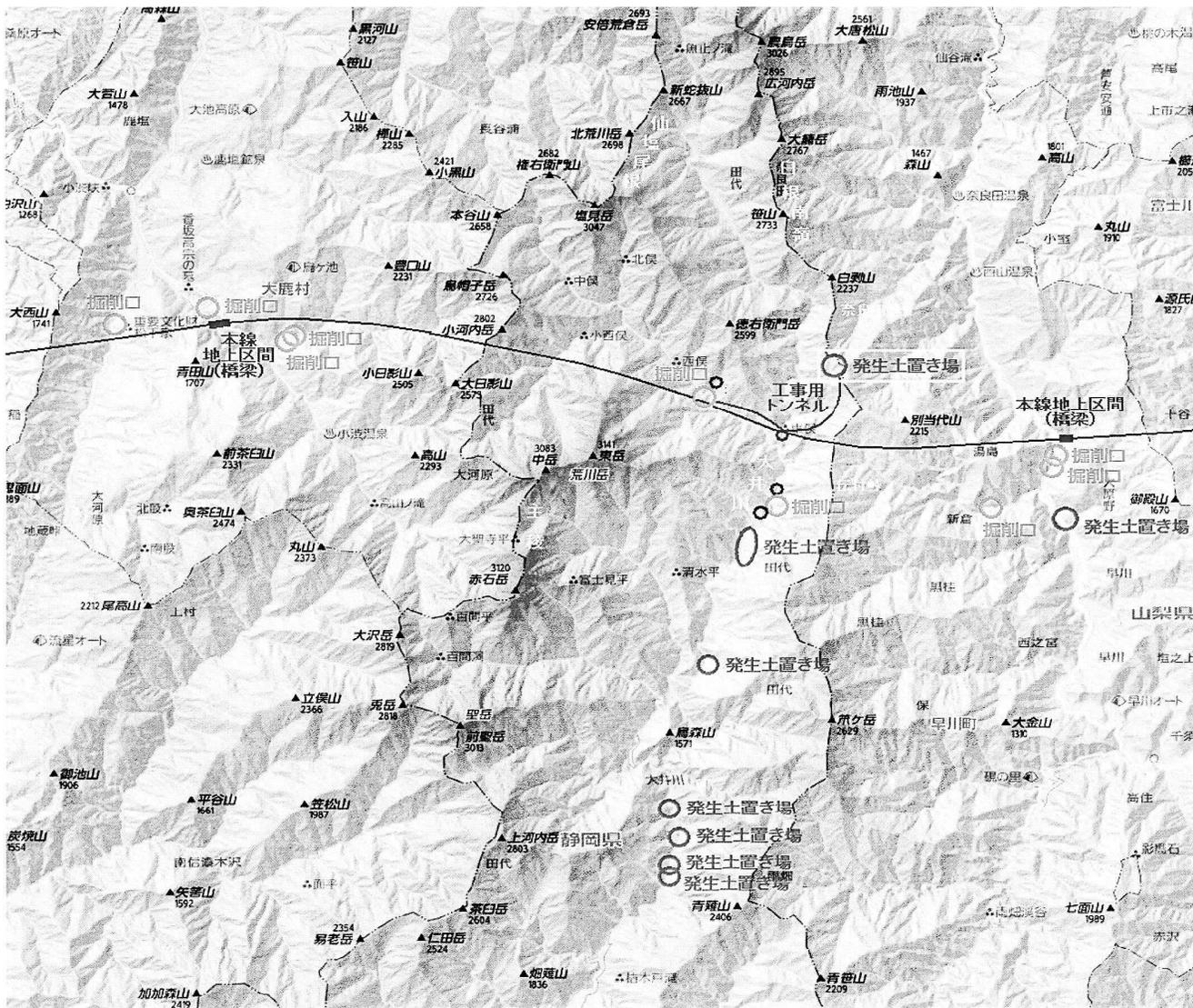
〔注2〕建設費9兆300億円（東京―大阪間。東京―名古屋間では5兆4300億円）や実際の乗車率などから考えても、このような料金設定で済むとは考えにくい。かなりの高額になることが予想される。

【おもな参考文献、引用文献等】

- リニア・市民ネット編著『危ないリニア新幹線』（緑風出版・2013年）
  - リニア中央新幹線環境影響評価準備書（長野県他）（JR東海・2013年）
  - 信濃毎日新聞（信濃毎日新聞社・2013年10月〜2014年6月各号）
  - 長野県下伊那郡大鹿村『環境影響評価準備書に対する意見』（2013年）
  - 財団法人日本自然保護協会『環境影響評価準備書に対する環境保全の立場からの意見』（2013年）
  - 『岳人』（東京新聞出版局・2014年2月）
  - 橋山禮次郎『リニア新幹線―巨大プロジェクトの「真実」』（集英社新書・2014年）
- また、白峰南嶺標高2050m付近（JR東海が土捨て場の予定地としている場所）の写真は河本和朗氏（大鹿村中央構造線博物館学芸員）にご提供いただいた。

2014年7月14日

（日本山岳会員）





「南アルプスでまたあした」開催中  
南アルプス市芦安山岳館で南アルプス  
国立公園指定50周年記念企画展を開催し  
ています。

南アルプスの登山口として知られてい  
る芦安に佇む山岳館は、丹下健三氏晩年の  
設計です。屋根のゆるやかな勾配は背後の  
山並みを思わせ、色を持たないガラス張りの  
ファサードは周囲の光と風景を  
刻々と映しだし、その洗練された建  
造物は、山の中にあつて不思議なく  
らい自然にとけこんでいます。  
県産材をふんだんに使った館内には  
展示室のほか山岳図書コーナー  
や語り部コーナーがあり、登山者に  
とつても充分に楽しめる心地よい空  
間になっています。

今回の企画展「南アルプスでまた  
あした」はその一角に設けられ、南  
アルプスの動植物や歴史、保護活動  
を紹介する写真パネルや、登録が決  
定したばかりのエコパークについて  
も触れています。これらの展示は山  
岳館スタッフを中心として、アクテ  
イブレンジャーや芦安ファンクラブ  
のガイドさんたちの協力によって手  
がけられただけあつて、愛情のこも  
ったあたたかみのある展示に仕上が  
っています。そして、この写真とキ

ヤッチコピーがまた魅力的ではありませ  
んか。更に50年先までを見据えた「あし  
た」というキーワードからは、南アルプス  
を守り続けたいと願う地元の方々の切な  
る思いと、この節目が新たなスタートであ  
るという意識の高さがうかがえます。

開催期間は約1年間、平成26年6月21  
日から平成27年5月31日までです。登山  
の行き帰りに、是非。  
(元川)

■南アルプス芦安山岳館  
山梨県南アルプス市芦安芦倉1570

<http://www.miniamalps.net.jp/>



企画展コーナーの一部

休憩スペースにはニホンジカやツキノワグマも。

## 投稿

### リニア中央新幹線に思う

#### ■リニア中央新幹線について

近藤雅幸

効率優先、利便性優先の社会は私たちに一体何をもたらしてきたのだろうか。そう思つて周りを見回すと世の中は便利になり、何でも早く簡単に手に入るようになっていた。ただ、その中に生きる人々はどっか余裕がなく、何かに追われているように見える。それがはたしてよいのか悪いのか、人によって感じ方は違つたろう。

ただ、生活にしても仕事にしても、そのスピードが以前とは比べ物にならないくらい早くなつてきているのは、誰の目にも明らかである。私が社会人になりたてだった30年ほど前、東京から大阪への出張はまだ1泊が当たり前だった。それが今はどうだろう。今は大阪だけではなく広島、福岡も日帰り出張圏である。

リニア中央新幹線はこういった現状をもっと極端な方向に押し進めていくものであると思う。午前中東京から大阪へ出かけて取引先との打ち合わせをやり、午後は東京に帰ってきて会議を開く。リニア中央新幹線によってそんなことが簡単にできるようになってしまふに違いない。

ただ、そんなことが今の日本に本当に必要なのだろうか。確かに経済的な活力が弱っている地方の活性化のためには、インフラを整備し、アクセスをスピードアップすることによって、そこに住む人たちが恩恵を受けるということもある。しかし大都市間をいま以上短い時間で結ぶ必要はあるのだろうか。

リニア中央新幹線は南アルプスをトンネルでぶち抜くことになっている。それによって恵みに満ちた南アルプスの自然環境は大きな影響を受けるだろう。このことについてはそれに対し胸を痛めている方々に寄稿していただいた。その現状、南アルプスの自然に対するストレスなど、掲載された記事を読んで、一度みんなでの問題をじっくりと考えていただきたい。そして同時に、リニア中央新幹線は必要かどうか。それが必要な社会とは私たちにとつてどういう社会なのか。私はそんなことにも考えを巡らせる必要があると思う。

#### ■リニア新幹線の実現と、自然保護を理由にする反対意見について

大船武彦

リニア新幹線は、日本の科学工学が久々に到達した世界スケールの業績の一つではないだろう

か。確かに詳細をみると無神経な計画もあるという。南アルプスの稜線2000mにまで、トンネルを掘った残土を積み上げる。なんていうのは、この業績の功を一举に欠く愚行に見える。残土を積み上げるなんて言う工法が、世界的な業績になるわけがない。詳細には判らないが、計画された路線域には、生態系保護区域が含まれている。日本の生態系に大きな比重を占める生きものがいるかもしれない。トンネルは、日本最大の断層、中央構造線の面を突き抜ける。そこに何らかの不安が予想されることもあるだろう。

これ等のことを考えると、数年前に政府予算の用途を検証して、世界一のコンピュータを二番目ではだめでしようか、とスケールダウンを狙った国会議員がいたことを思い出す。大切なことは、一番か二番かではない。我々、日本人が、持っている能力を高め人類の進化に寄与することである。だから、二番でもいいではないかでは、能力が高められるだろうか。

ここでは、自然保護がブツツカル最大の問題点があらわになる。人類の発展とは、実は、効率化のことであつて、人類の歴史は、生産性の向上の積み重ねとさえいえる。現在では、効率化が自然の破壊や環境の悪化と結びつくことも多い。農耕が始まった時には、コメや麦の禾本

類が本来持っている、落粒性（正しい言葉かどうかを知らない、種が穂から、落ちる性質のこと）のために、ライスビーターと言う道具を開発して、効率よく実（種）を集めたという。

このライスビーターにもいろいろの形態や材質があつて、一様ではなく、どの禾本なのか、などによつて、効率の良しあしがあつたという。文明の始めの頃から、いろいろの試みが行われてきたということだ。しかもこの道具は、現在の世界でも使われていて、役に立っているのだという。人間の発明は、恐ろしいものである。効率が高ければ何でもいいかということ、最高のエネルギーを開放する仕組み（原子爆弾は、人類に見放されようとしている。リニア新幹線は、原爆ではない。計画の中には、何を考えているのだ、と思う部分もあるに違いない。科学技術の進歩に隠れて、むちやな試みが潜んでいるかもしれない、そのような事柄に対しては、果敢に戦うものだと信じる。しかしながら、我々に求められているのは、全体の進歩を後押しすることであつて、障害を盾に全体を打つ遣ることではあるまい。角を矯めて、牛を殺すことあつてはならない。自然保護とは、人類の進化に寄与する考えのことだと強く信じている。

## ■トキワトラノオに思うこと

元川里美



写真は大鹿村のトキワトラノオです。県道赤石岳公園線、釜沢付近の道路わきで撮影しました。日本での分布域は広いものの、埼玉・富山・鹿児島など複数の都道府県で絶滅危惧Ⅱ類に指定されており、長野県でも絶滅危惧Ⅱ類に指定されており、大鹿村では数年前にこの場所での存在が確認されたばかりです。そして、この自生地からそう遠くない場所に、リニア本坑に通じる“掘削口”が開けられる予定になつてい

ます。

この場所でトキワトラノオの自生を確認した「県希少生物保存調査会」（信州大学自然環境診断マイスターの有志による会）の代表を務める竹重聡さん（長野市在住・環境カウンセラーズ信州会員）は、工事車両などの影響によるトキワトラノオの消滅を危惧し、昨年11月の公聴会で、その保護を訴えています。独自の自然観を持ち、どことなくマタギを思わせる竹重さんとは偶然にも知り合いだったので、今回、生育地までの案内を依頼したところ、快くひきうけてくれました。

梅雨の週末、竹重さんの案内で大鹿村の奥へと車を走らせる途中、集落付近では村の人々が雨の中、合羽を羽織つて道端の草を刈り取っていました。ちようど一斉草刈り日だったようです。この村の生活道路と“日本一美しい里山”は、村の人々の手によつて丁寧を守られています。目的地にたどり着くまでに私たちは、奥ゆかしく佇む日本の原風景のような集落を、いくつか通りぬけてゆきました。

トキワトラノオが生えていたのは、小河内川に架かる古い橋の手前である、古い石垣の隙間でした。頭上には高い樹木が生い茂り、半日陰状態の、見るからにシダ類が好みそうな場所です。そこには、7〜8種類ほどのシダがあり、



トキワトラノオの自生地

トキワトラノオも目線の高さに何株か散在して  
いました。シダの識別ポイントをよく知らない  
私にとっては他のシダとの区別が難しく、これ  
といった特徴をうまく説明はできませんが、よ  
く観察してみると小さな葉の一枚一枚は端整な  
つくりで、葉身は長いものでもせいぜい10cmく  
らいでしょうか。掌に乗るくらいのも、とにかく  
かわいらしいシダです。雨の滴に洗われたトキ  
ワトラノオは、瑞々しい輝きを放っていました。  
竹重さんによれば、日本の森林におけるシダ

の種数は、その地域の植物総種数の約1割に相  
当するのだそうです。例えば、裏山にシダが10  
種あるとわかれば、数えるまでもなく、その裏  
山には約100種の植物が生えていることが予  
測されるといいうわけです。

このあたりには、トキワトラノオのほかにあ  
と何種のシダがあるのかは知りませんが、深い  
山ふとこで肩を寄せあいながら、人知れず生  
きてきた植物たちの息遣いが、この小さなシダ  
を通して聞こえてきたような気がしました。

“掘削口”の工事がいったいどのように進め  
られるのか、具体的に想像することはできませ  
ん。しかし“掘削口”予定地までは、さしあた  
りこの道を通るしかない以上、竹重さんが懸念  
しているように、このあたりを工事関係車両が  
一台も通過しないということは、まず考えられ  
ません。自然というのは、人間が思っているほ  
ど弱くはないはずですが、仮に今回の工事が、  
周囲の自然に細心の注意を払いながら必要最  
限の範囲内で進められたとしても、居心地が悪  
くなったと感じた時には、このシダも潔く姿を  
消してしまふことでしょうか。そして前述のシダ  
の法則から逆算すれば、トキワトラノオが消え  
ると同時に、他の何種かの植物たちも、その  
あたりから消えることになるのかもしれない。

## 2014年度の購読料・カンパを

ありがとうございます。

5月16日～7月25日 敬称略

黒田正雄(我孫子市)・堀内弘栄(川崎市)・  
太田義一(加賀市) 樋口みな子(江別市)  
カンパ含む・田村佐喜子(松本市)・穴田雪  
江(東京都練馬区)・間瀬泉(新潟市) カン  
パ含む・石岡慎介(市川市)・河野直子(池  
田市)・船田洋子(福井市) カンパ・福田光  
子(秋田市) 金井善男(上田市) カンパを  
含む・延島冬生(東京都小笠原村) カンパ・  
島田稔(東京都新宿区)・大口瑛司(北名古  
屋市) 飯田晴康(狛江市) カンパ含む・白  
鳥勝治(静岡市)・倉持内武(町田市) 富田  
令子(千葉市)

合計三万二千四百四十四円

なお、支部長・支部自然保護委員には無  
料配布を原則としていますのでお受けした  
購読料はカンパ扱いとさせていただきますし  
た。

振込時にカンパの記載のなかった方は会  
費前納扱いとさせていただきます。

## ◇自然保護委員会の活動記録◇

### 〈五月度〉

- ①山岳団体自然環境連絡会：5月23日(金) 出  
席者：近藤、富澤、渡邊、武藤  
各団体の報告

・「写真が語る山の自然の昔」について  
11月に広島で行われるアジア山岳自然保護  
会議について協議会でプログラム作成  
・トレランについて 環境省のガイドライン  
に協議会の考え方が反映される

### ②自然保護委員会 5月28日(水)

- ・5月14日理事会報告  
・自然保護全国集会(広島)  
・スケジュール案を承認、主催者文書発信  
元は広島支部長とする。  
・サブテーマは「山と人の関わりあいを考  
えてみる」とし、内容を検討  
・参加費用は広島山岳平和祭主催者と調  
整の上、決定。  
・トレイルランニングについて  
・「原則として反対である」という意見を  
強く打ち出す。

・リニア新幹線の環境への影響について  
懸念される問題が多い。  
意見を集約して、会報に掲載する

### 〈六月度〉

●「木の目草の芽」 110号発行

### ①「広島山岳平和祭」打ち合わせ：6月18日

(水)(公社)日本山岳協会(岸記念体育館)  
出席者：近藤、富澤、渡邊、廣田

・11月23日(日)午後の集会在「記念集会」  
(日山協主催)に変更、JAC下野(綾  
氏の発表は予定通り)。

・日山協・神崎会長から「広島山岳平和祭」  
へのJACの後援と実行委員の選出依頼。

### ②自然保護委員会 6月25日(木)

- ・6月11日理事会報告  
・トレイルランニングについて  
・自然保護全国集会(広島)について  
・JACとしての行事は11月22日(土)  
の全国集会と懇親会のみとし、フィール  
ドスタデイは行わない。23日(日)  
以降は「広島山岳平和祭」に自由参加。  
・スケジュールは、『木目草の芽』と『山』  
に掲載予定。

・リニア新幹線について  
・『木の目草の芽』への掲載記事は賛否両  
論を併記する。

・「地域自然保全法」について。

③山岳団体自然環境連絡会：6月27日(金) 出  
席者：近藤、渡邊

各団体の報告

・「写真が語る山の自然 今・昔」および山  
の野生鳥獣目撃レポートについて

・広島大会の日程、プログラム等

・Sustainable Summit Conference in  
Golden Coloradoの参加について

〔編集後記〕南アルプス特大号のような内容に  
なりました。色々な意味で、今、南アルプスが  
熱くなっています。

■巻頭をお願いした広瀬和弘さんは、エコパー  
ク申請書作成において重要な役割を果たし、模  
索の中から生みだされた申請書は、ハイコオリ  
ティーな内容であると、ユネスコから高い評価  
を受けたと聞いています。若手ながらも人望あ  
つく、これからの南アルプスを支える人物のひ  
とりとと言えるでしょう。

■佐藤明穂さんの投稿に背中を押されて今回  
初めて大鹿村を訪れ、中央構造線博物館の河本  
学芸員にもお話をうかがいました。あののどか  
な谷の地上部分を一瞬、リニア新幹線が走り抜  
けてゆくのだそうです。動植物や地質のことは  
言うまでもありませんが、日本橋の首都高を後  
悔しはじめている日本人のひとりとしても、や  
はり釈然としない気持ちが残ります。(元川)